

鑑別困難症例の課題と現状 ～子宮内膜～

愛媛大学病院 病理診断科¹⁾ 産婦人科²⁾
片山英司¹⁾ 水野洋輔¹⁾ 松元隆²⁾
明賀さつき¹⁾ 今井美奈¹⁾ 影山由美¹⁾
池内五十鈴¹⁾ 上田康雄¹⁾ 北澤理子¹⁾

子宮体癌のタイプ別にみた発癌機構

I型子宮体癌



- PTEN変異; 10番染色体上に位置する癌抑制遺伝子。細胞周期の制御やアポトーシスに関与。
- K-ras変異; シグナル伝達経路や細胞増殖に関与。
- β-カテニン核内集積; 細胞の増殖と分化を制御する細胞内シグナル伝達経路において転写活性調節因子として機能する。
- MSI; ミスマッチ修復機構の破綻に関与。

MSI; microsatellite instability

His.(組織診断) 正常/良性病変

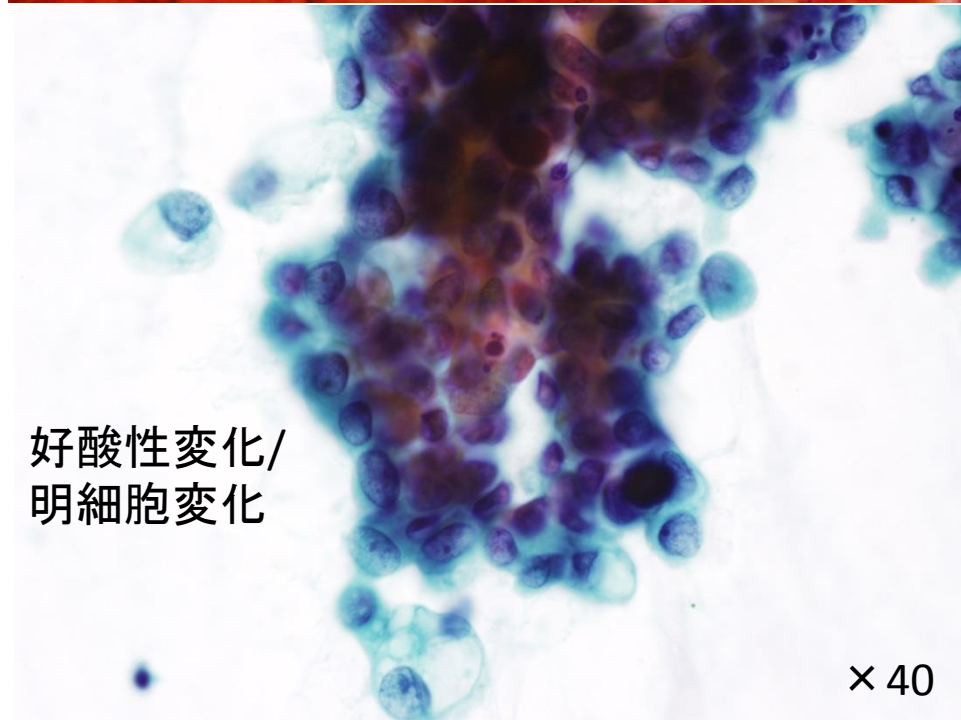
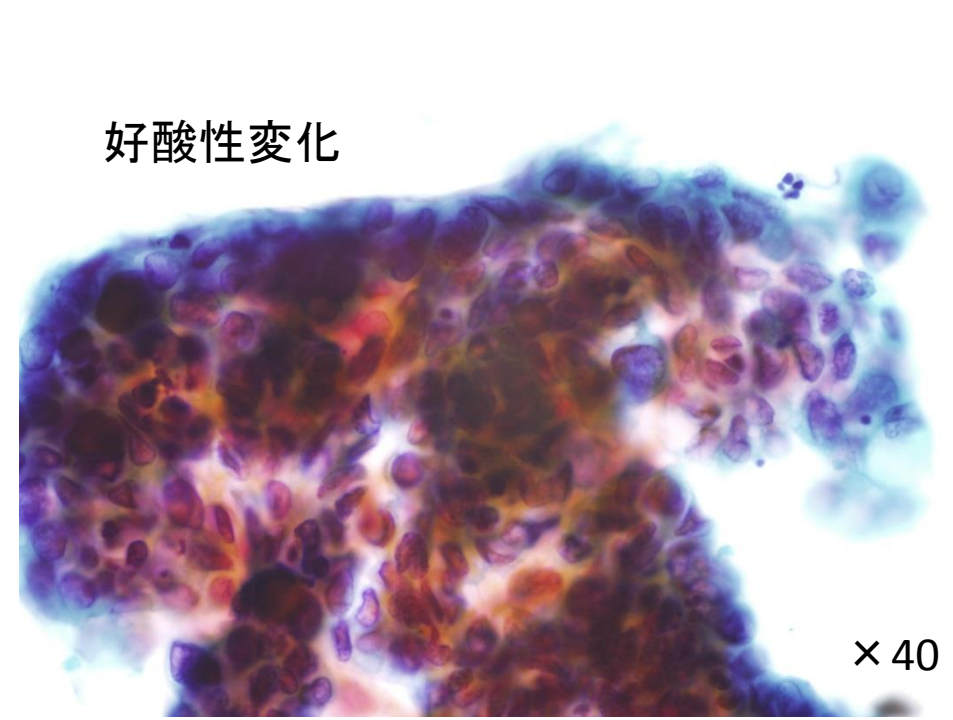
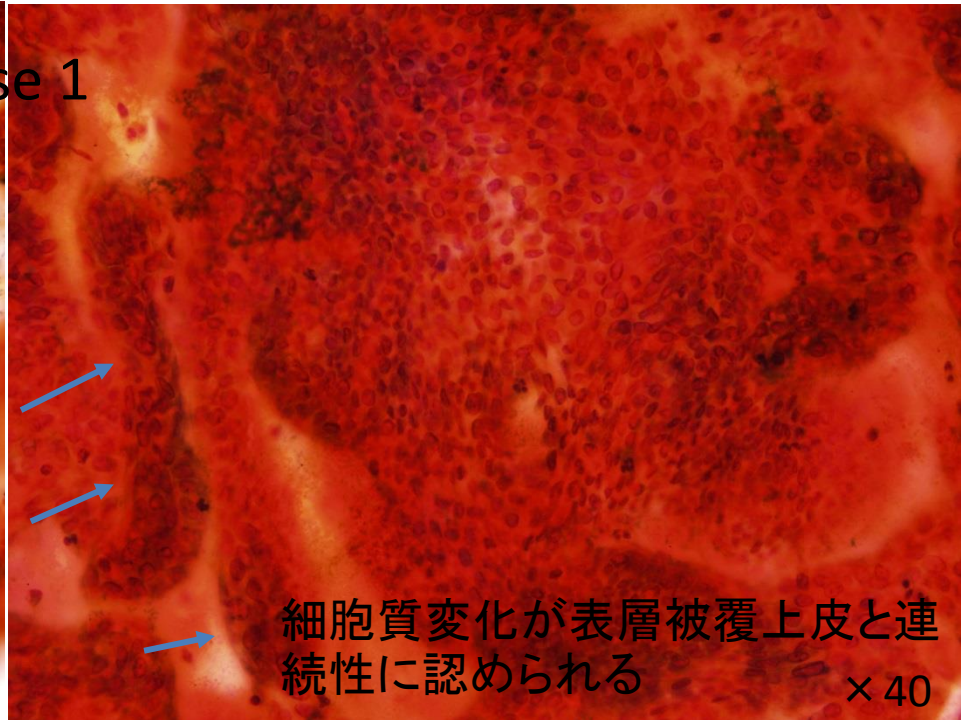
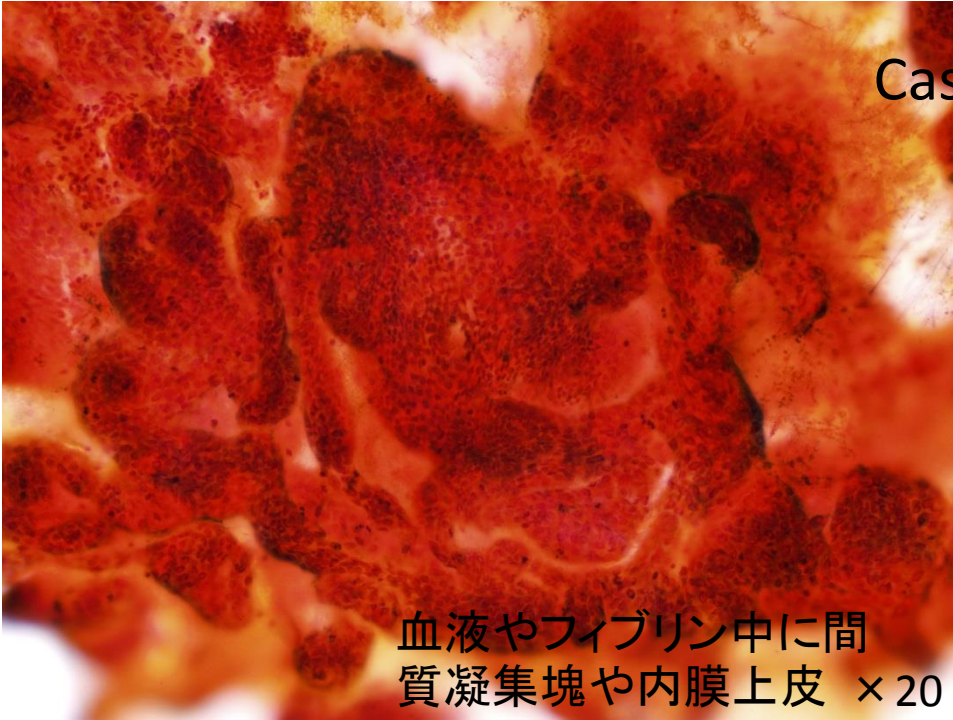
組織診断	case	集塊の幅 不整・分岐	腺腔数の 増加	間質付着	不規則重 積性	備考
No malignant change	1	+	-	-	+	好酸性変 化/明細胞 性変化 間質凝集
不規則増殖期 内膜(DPP)	2	+	-	-	+	好酸性変 化/明細胞 性変化 間質凝集



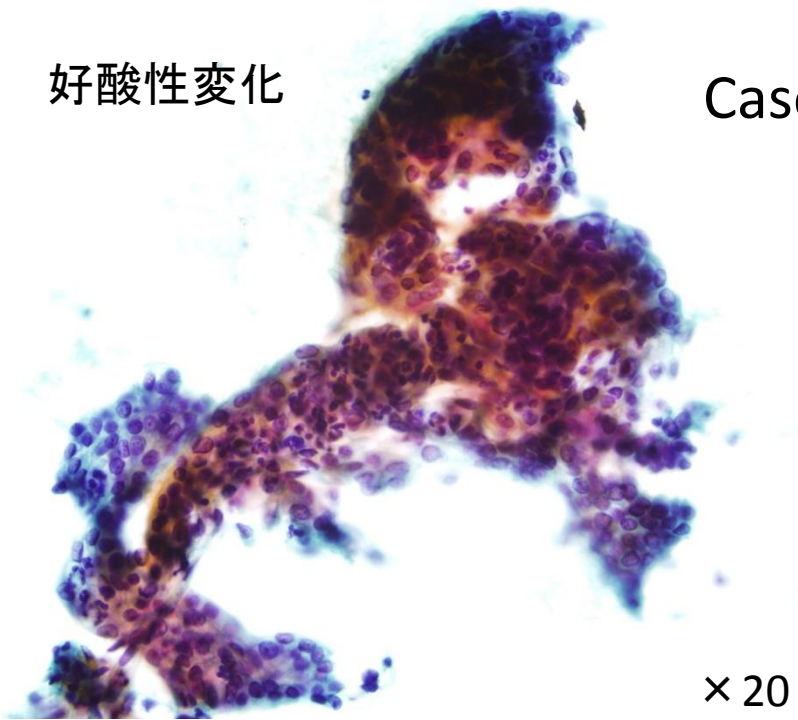
細胞診断判定 Class I - II



細胞診断判定 Class III

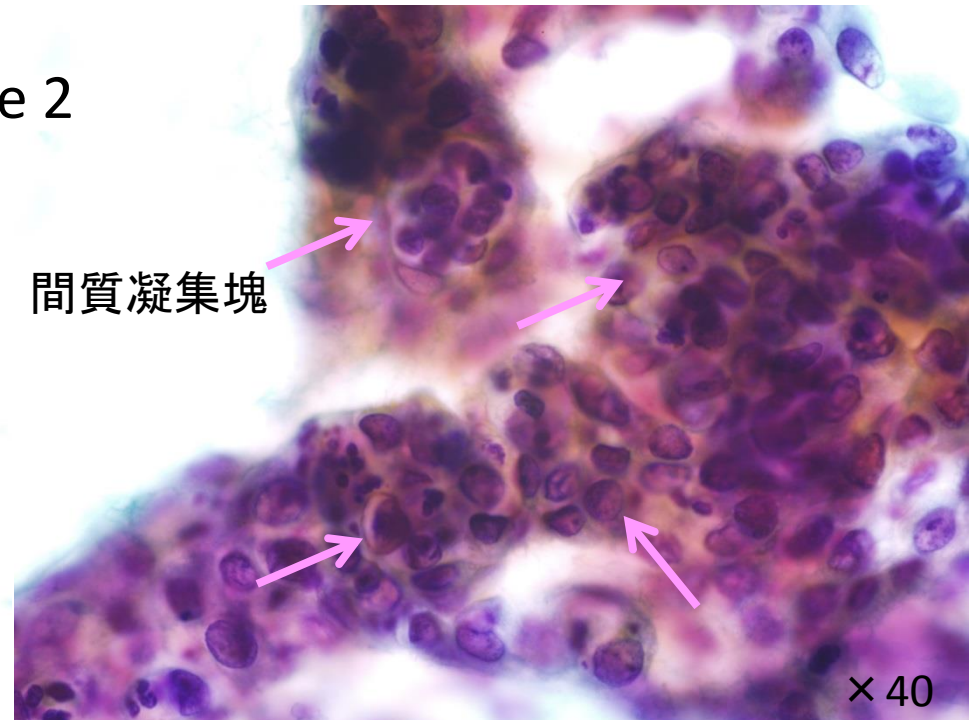


好酸性變化



Case 2

間質凝集塊

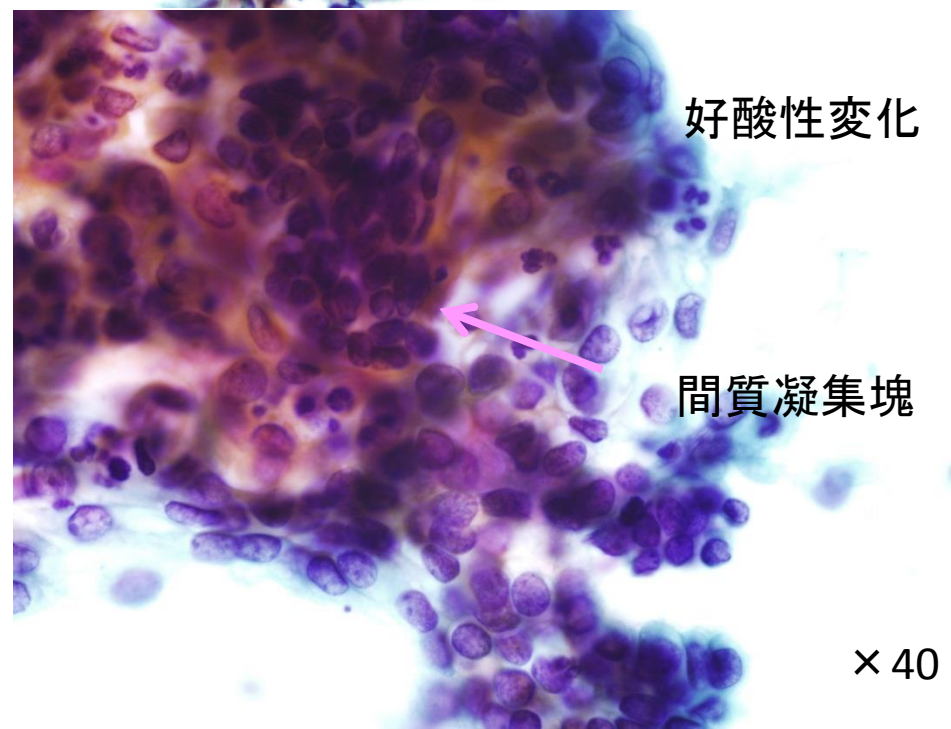


× 20

× 40

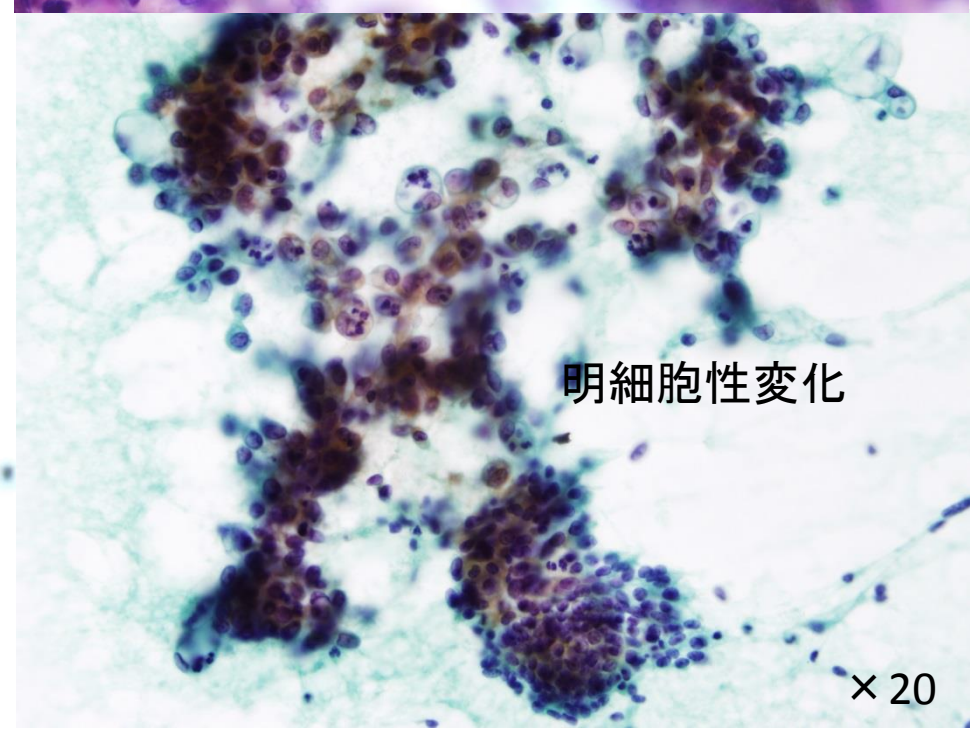
好酸性變化

間質凝集塊



× 40

明細胞性變化



× 20

His.(組織診断) 単純型子宮内膜増殖症

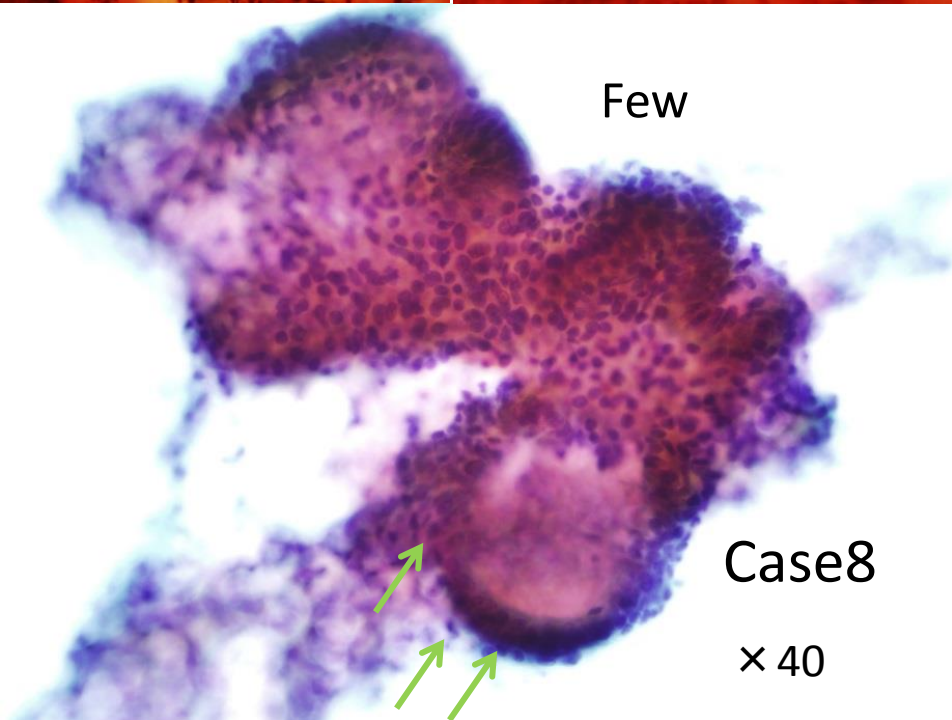
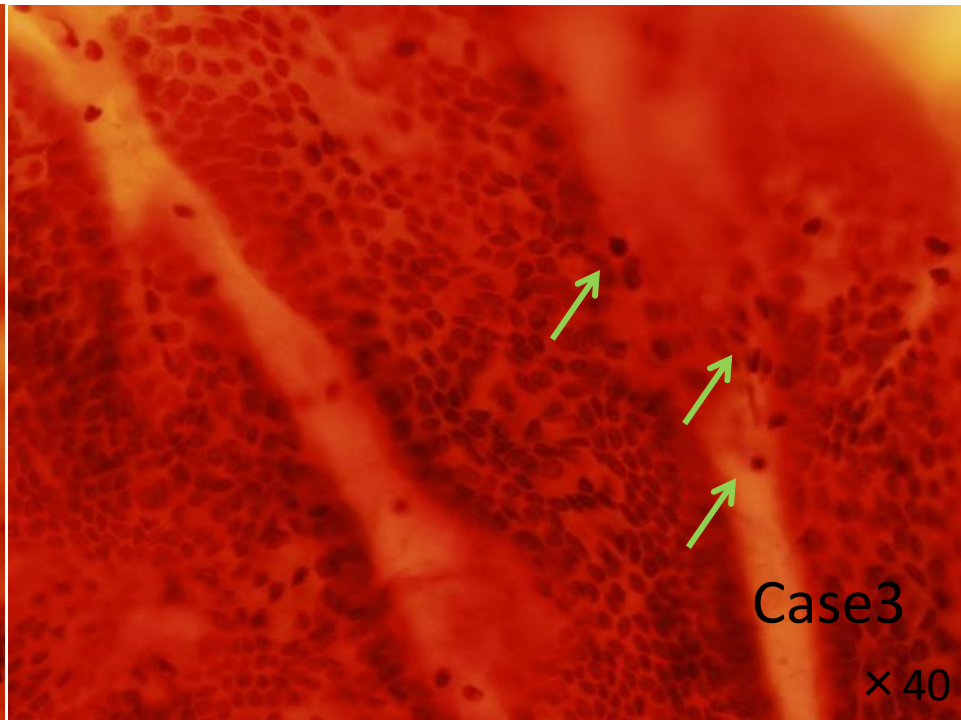
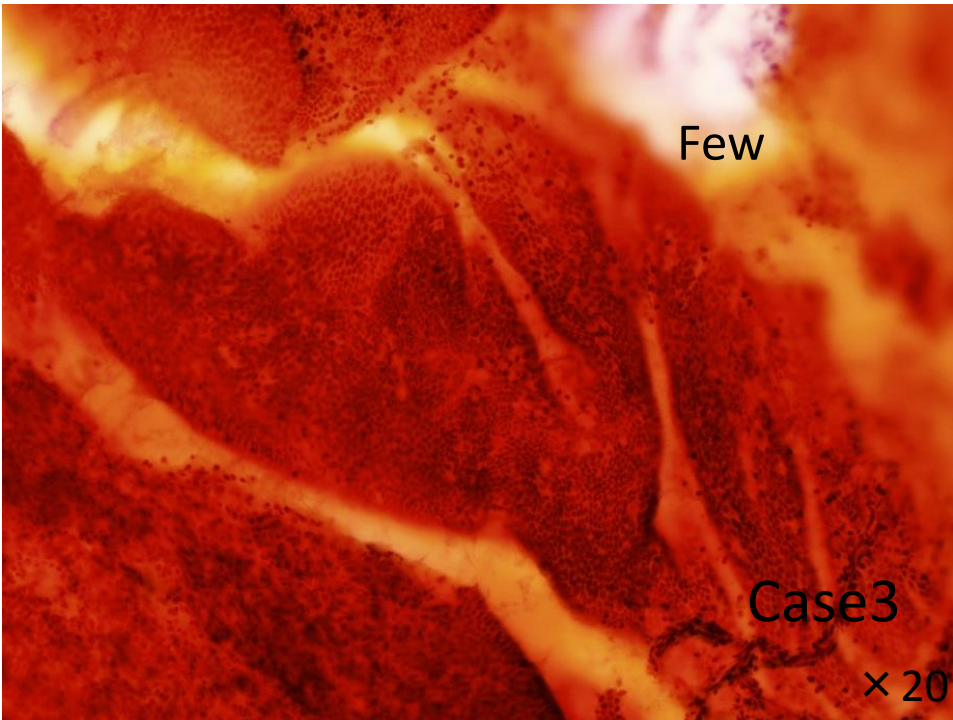
組織診断	case	集塊の幅不整・分岐	腺腔数の増加	間質付着	不規則重積性	備考
Simple endometrial hyperplasia	3	+(few)	-	+	-	
	4	+	-	+	-	好酸性変化/明細胞性変化/扁平上皮性変化
	5	-	-	+	-	
	6	-	-	+	-	
	7	-	-	+	-	
	8	+(few)	-	+	-	



細胞診断判定 Class I - II



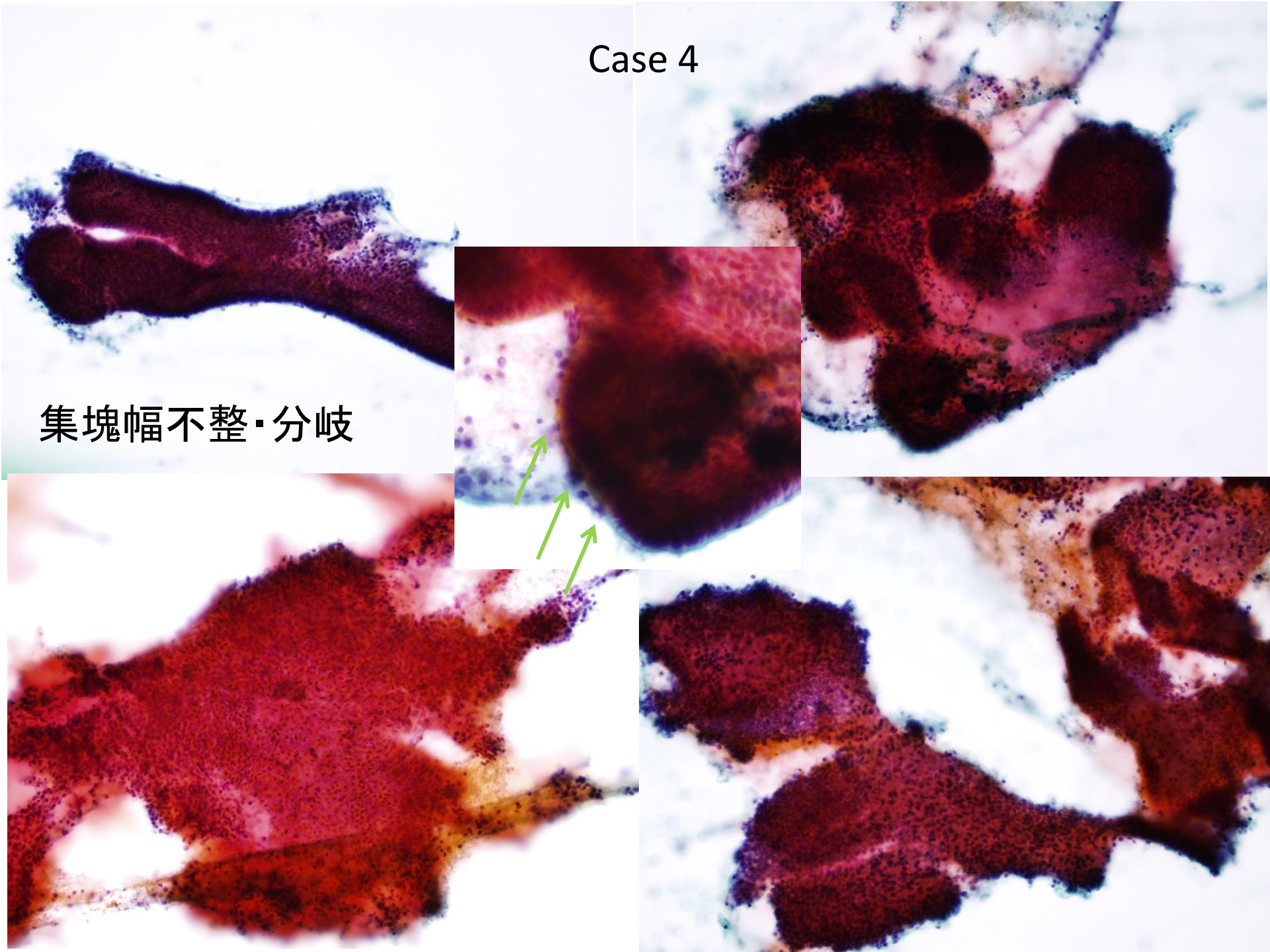
細胞診断判定 Class III



集塊幅不整・分岐

Simple
endometrial
hyperplasia

Case 4



集塊幅不整・分岐

His.(組織診断) 複雑型子宮内膜異型増殖症

組織診断	case	集塊の幅 不整・分岐	腺腔数の 増加	間質付着	不規則重 積性	備考
Atypical endometrial hyperplasia	9	+	-	+	-	扁平上皮性 変化

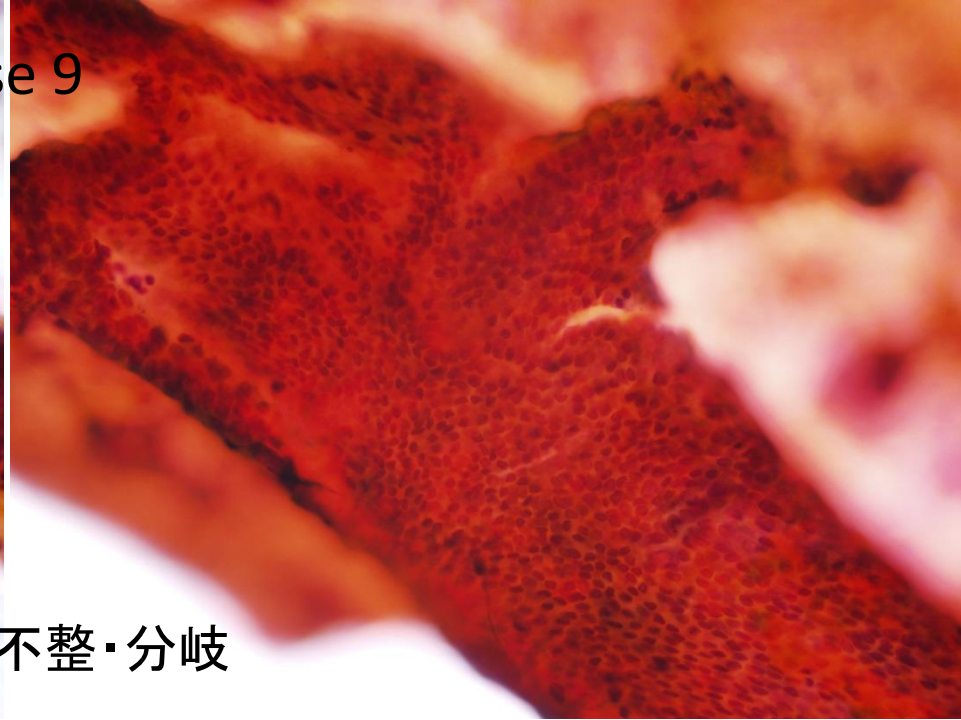
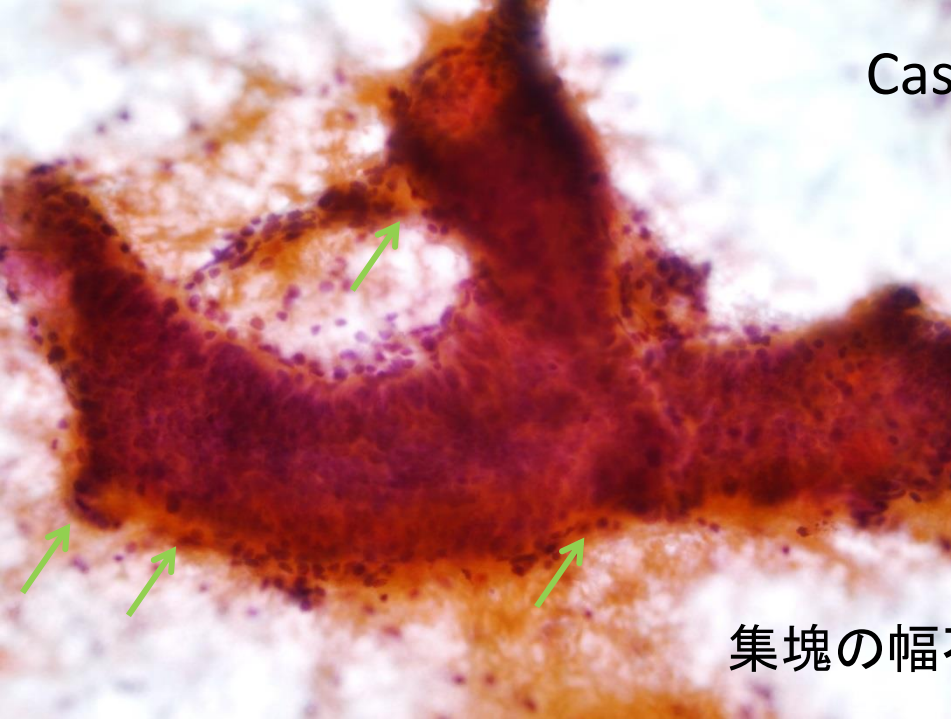


細胞診断判定 Class I - II

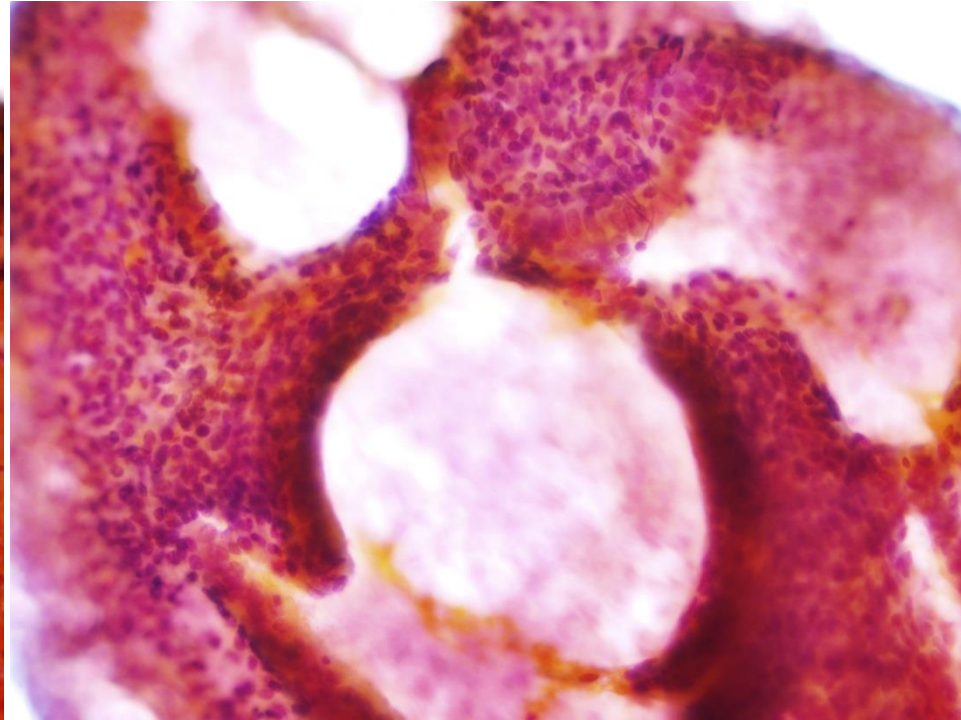
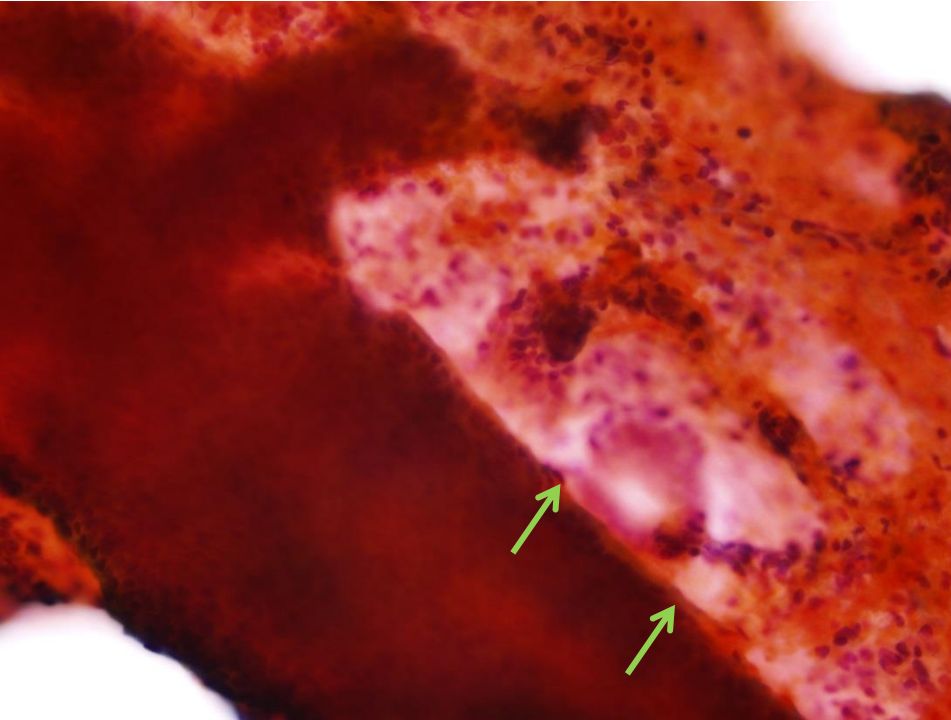


細胞診断判定 Class III

Case 9



集塊の幅不整・分岐



His.(組織診断) 類内膜腺癌

組織診断	case	集塊の幅 不整・分 岐	腺腔数の 増加	間質付着	不規則重 積性	備考
Endometrioid adenocarcino ma	10	+	+	-	+	
	11	+	-	-	+	
	12	+	+	-	+	
	13	+	+	-	+	morule

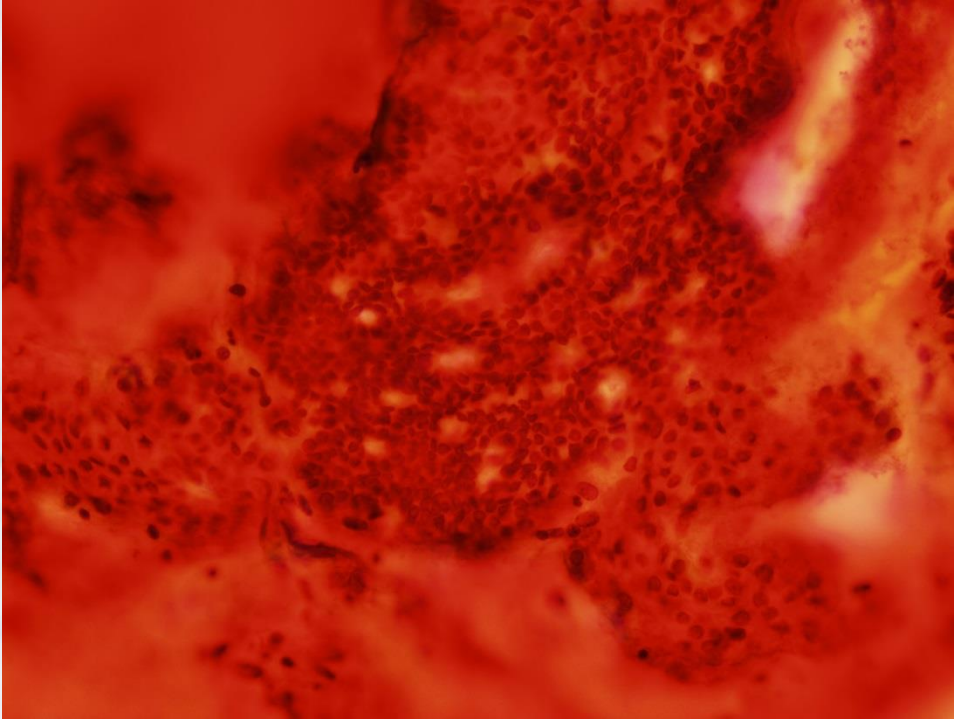
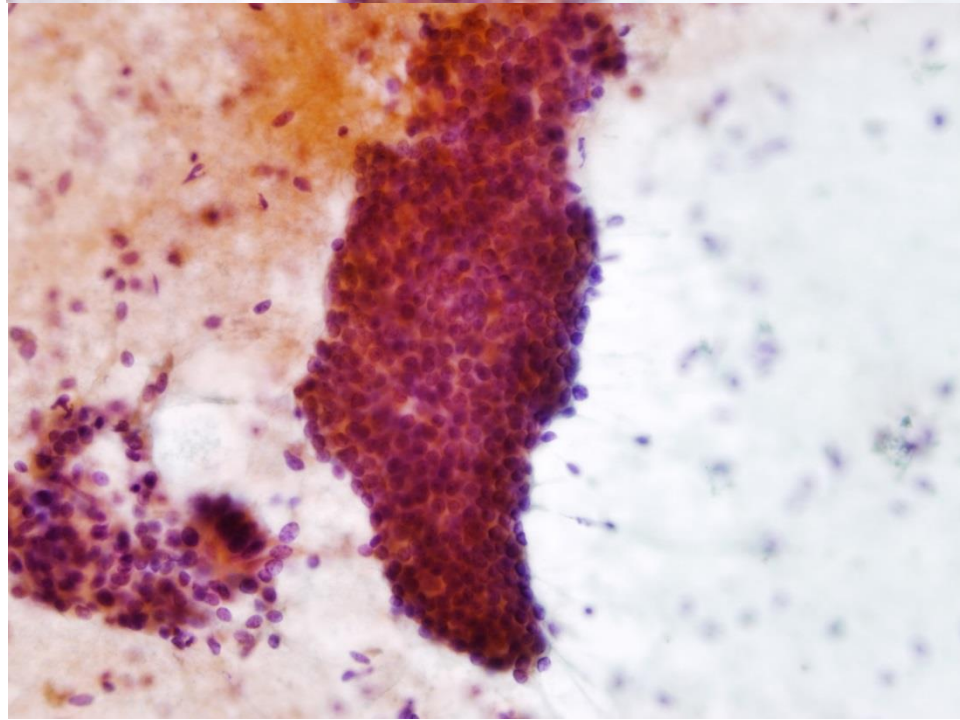
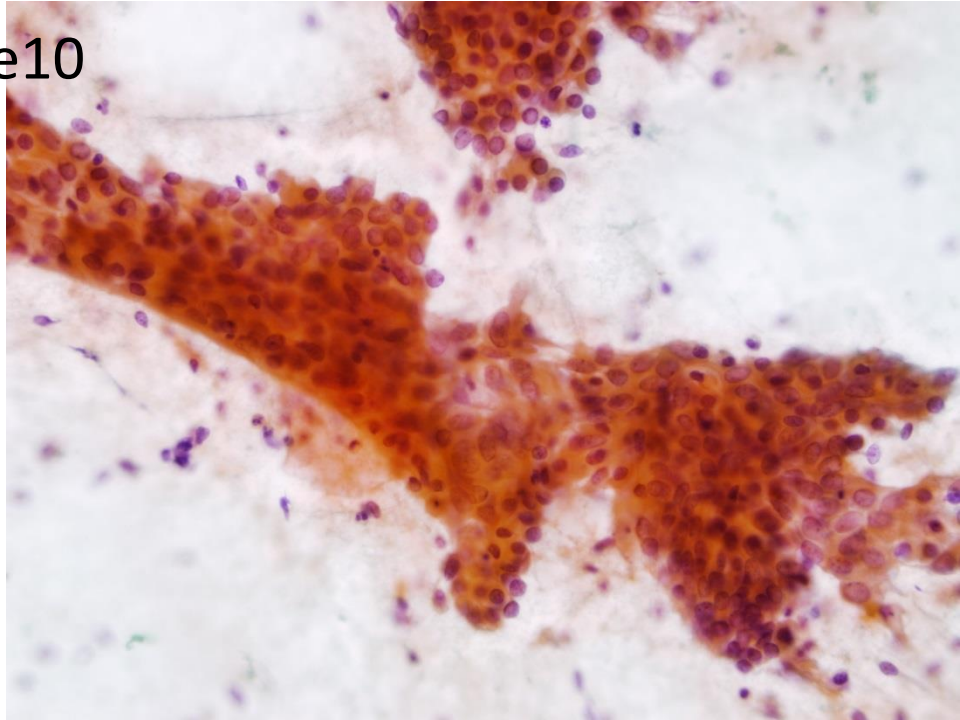
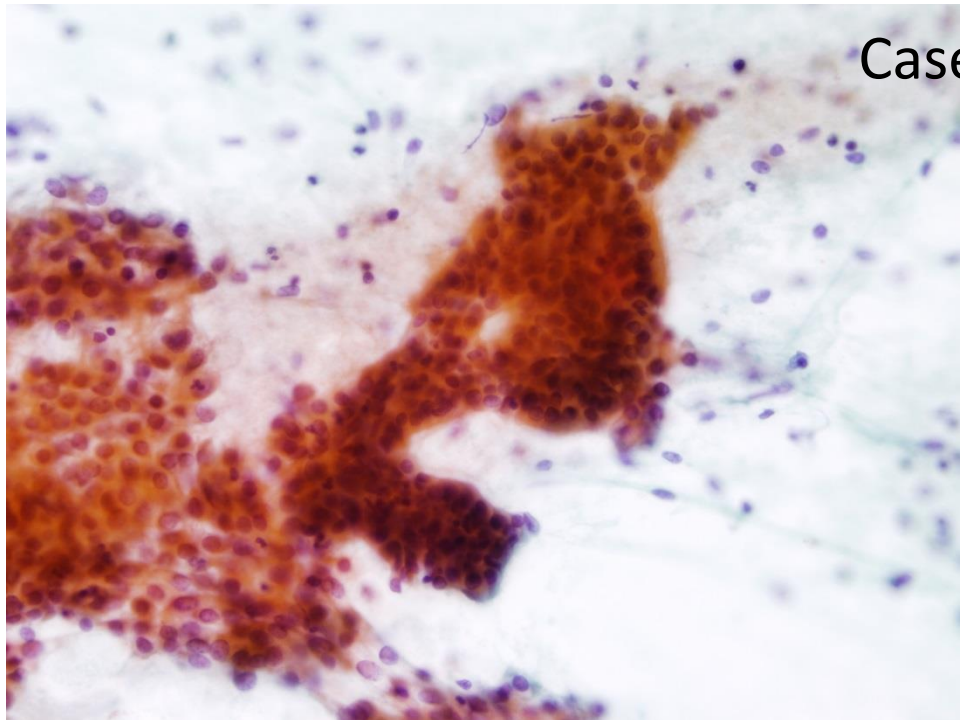


細胞診断判定 Class I - II

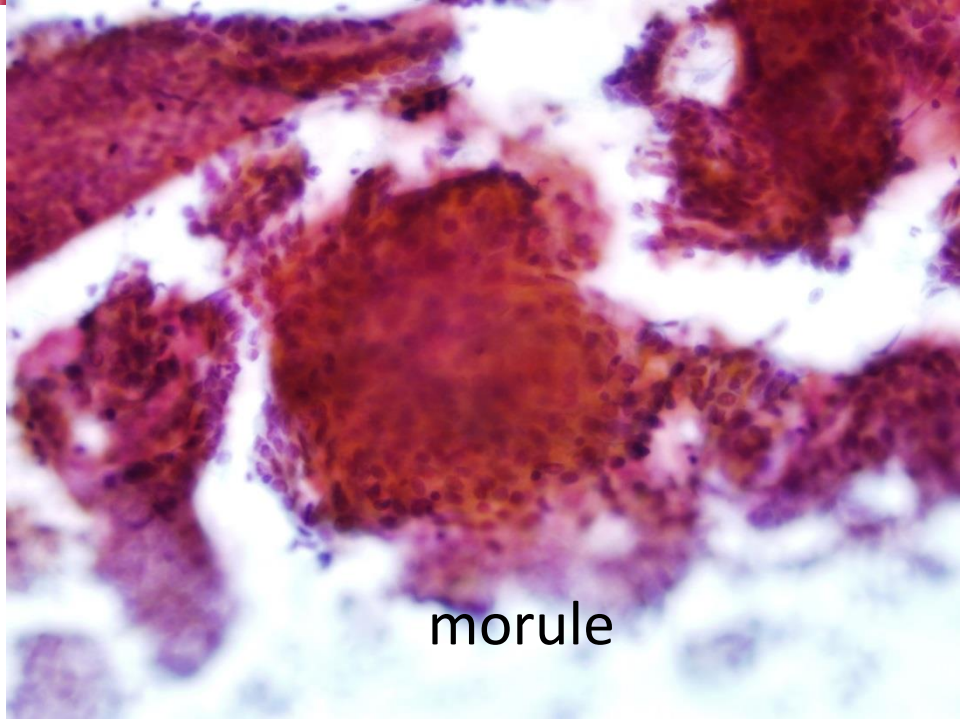
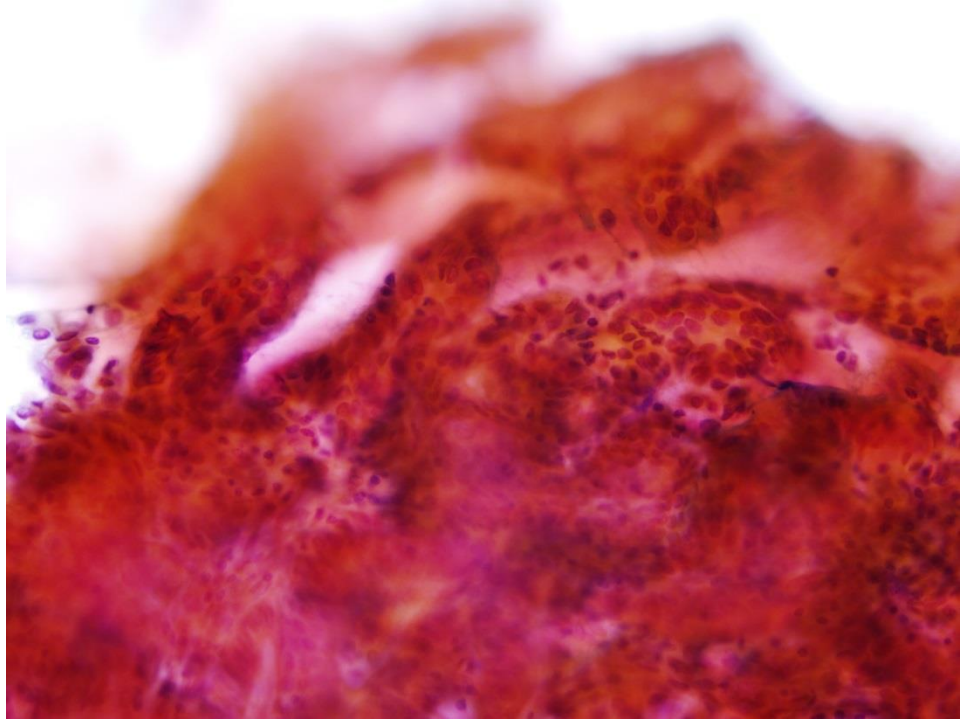
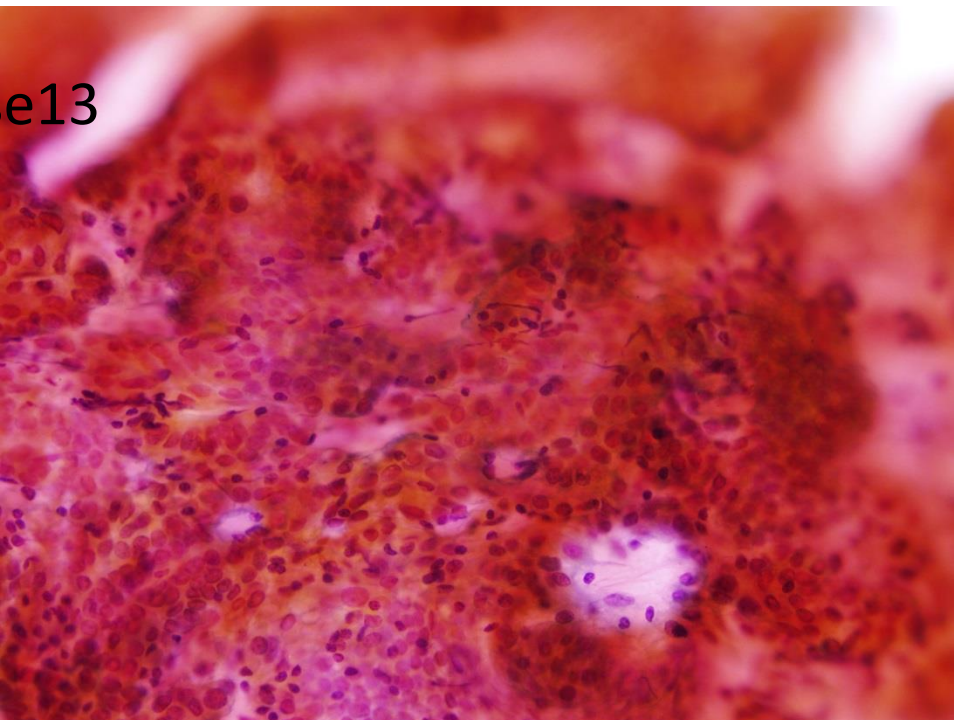
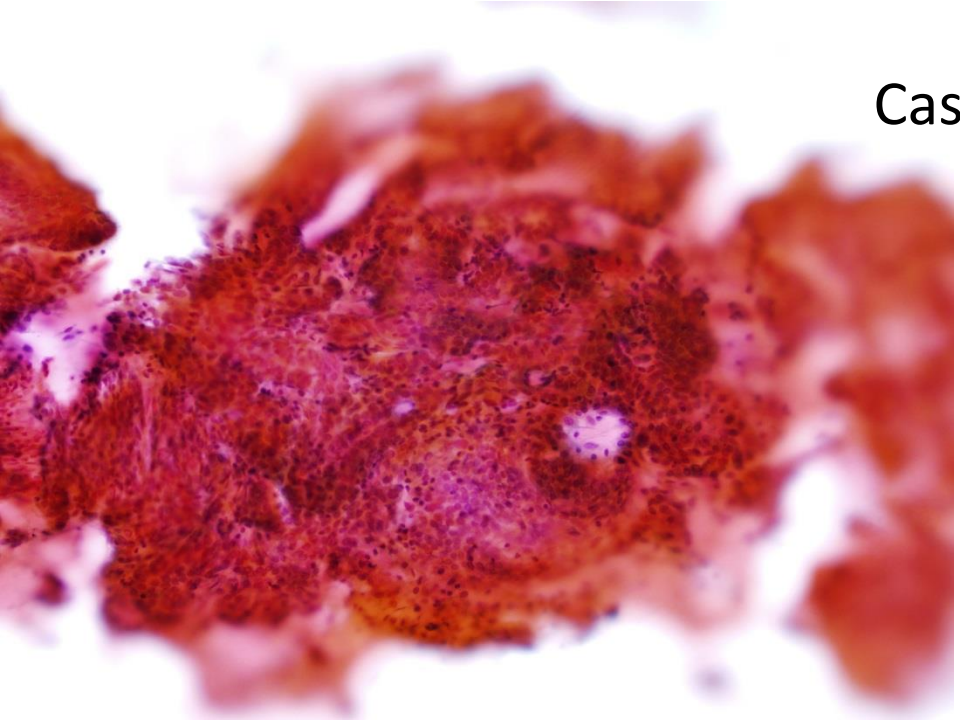


細胞診断判定 Class III

Case 10



Case13

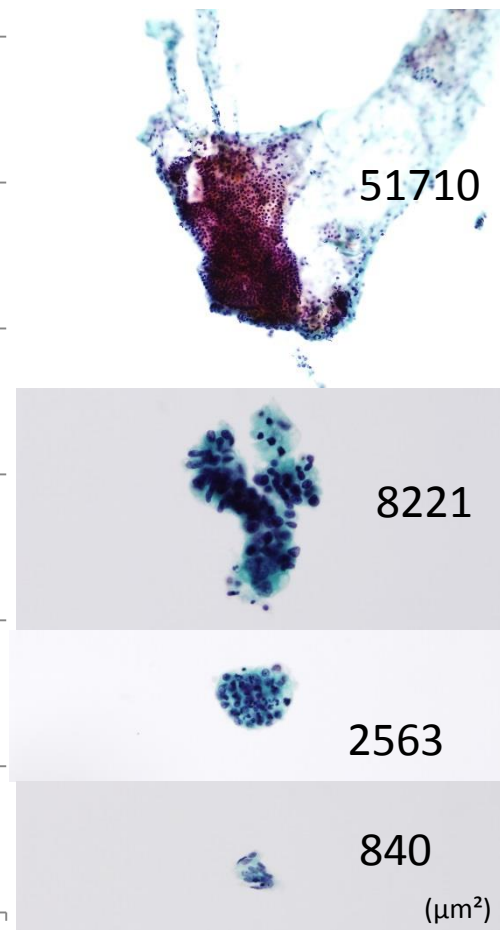
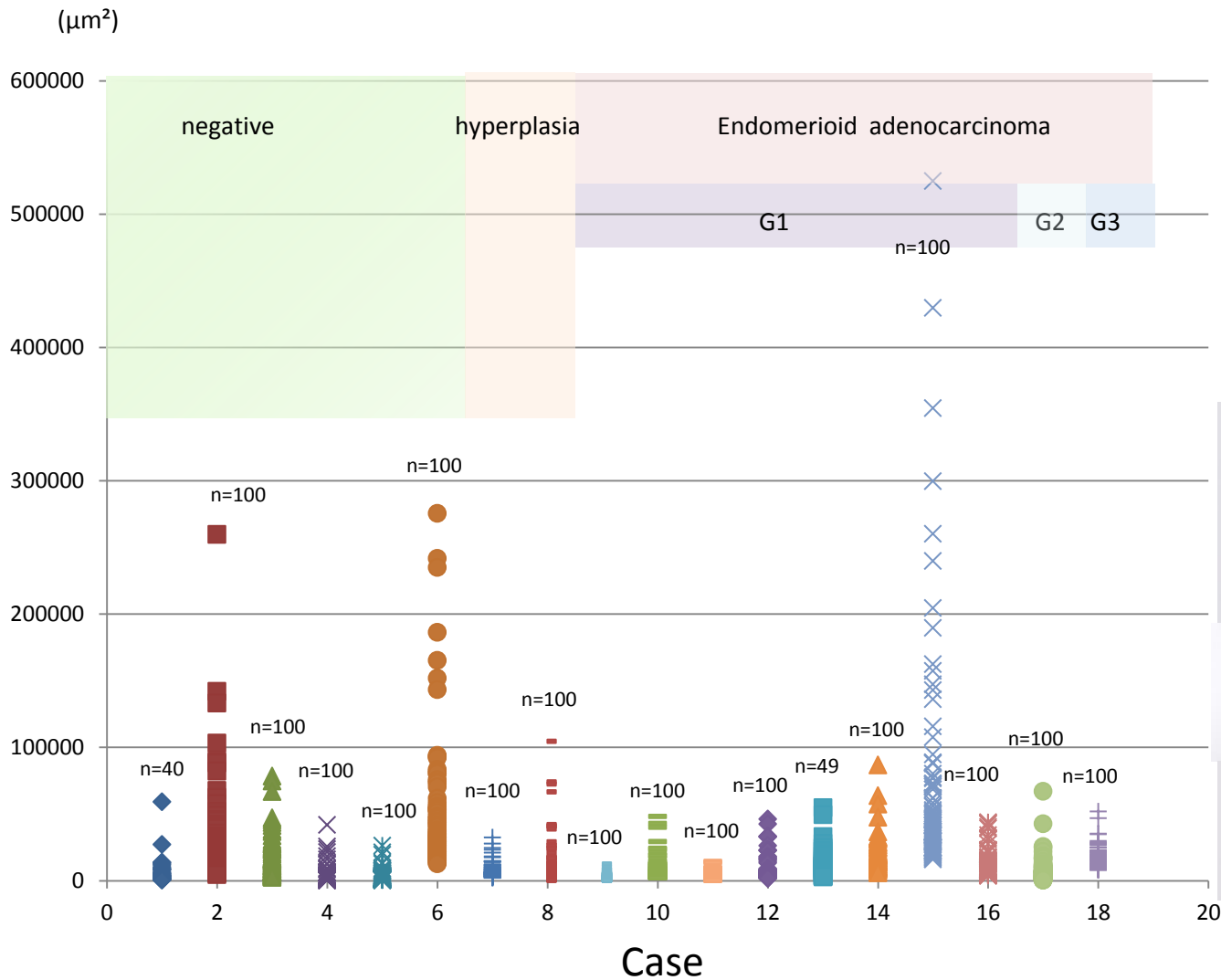


morule

まとめ

- 子宮内膜は、卵巣ホルモンの刺激により増殖・分化・剥離という性周期変化のほか、卵巣の機能異常や様々な内膜組織変化生じる。このことが、内膜細胞診断において偽陰性や偽陽性の原因の一つであると考える。
- 異常細胞集塊の意義を理解し、その絶対数や出現頻度を考慮して病変を推定することは重要であると考える。
- 免疫染色による良悪性の鑑別は困難であるが、様々な内膜組織変化と腫瘍性変化を区別するのに、ki-67,cyclin A,p53蛋白の染色が有用であるとの報告がなされていることから、今後検討したいと考える。

フィルター法により作成された内膜細胞診標本の病変別の集塊面積



まとめ

- フィルター法により作成された液状化細胞診標本でも、十分に細胞像の観察は可能であった。
- 病変の悪性度、つまりは細胞間の結合性の強さと集塊面積との間に相関は認められなかった。
- 免疫細胞染色を実施するために、液状化細胞診標本を作製することは有用であるが、組織構築の断片化が見られることから細胞診での異型腺管上皮の評価方法については習熟する必要があると考える。